

M. T.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私が留学をしようと思った理由は、英語力を上げて、将来につなげていきたい、と思ったからです。留学をしたいと思い始めたのは高校生のころからです。

② 留学決定から出発までの準備期間

セメスター留学が決まってからは、まだ 2 年秋からのセメスター協定留学のスコアクリアが目標だったので、IELTS や TOEFL の勉強をしていました。留学前は、単語の勉強をしました。ビザ申請手続きは自分で行いました。大使館の HP のビデオを見ながらでない間違えてしまうような部分もあり、思っていたより大変でした。面接の予約だけは本当に早めにおいた方がいいと思いました。航空券は、値段とマイルを考えて、乗継便を個人で取りました。

③ 現地到着後

空港には PIA の方が来てくださることになっていましたが、空港に着くとそれらしき人が見つからず、なぜか電話も使えなくて本当に困りました。その後、迎えに来ていたホストマザーと会うことができました。初日は時差ボケで朝まで眠くなりませんでした。オリエンテーションまでにはハウスメイトとも仲良くなり、あまり不安もなく学校を始めることができました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

学校は夜間授業の大学だったので、大きな設備ではありませんが、図書館や学食、ブックストアがあり、食べ物にも困ることはありませんでした。PIA の代表の Rahi はスタッフのなかでも特に面白い方でした。

◆ 授業内容、課題、試験

授業は、日本では習わないような単語ごとのニュアンスの違いや、プレゼンの方法など、有意義なことを学びました。課題は、量は少なくはないですが、CASE の課題よりはこなしやすかったように思います。試験は、先生によりますが、Reading のテストは点がとりにくかったです。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

学校のアクティビティには、ハウスメイトから誘ってもらってたくさん参加しました。

⑥ 現地ででの住まいについて

私は学校まで 20 分くらいの場所でホームステイをしていました。その地域はオレゴンでは裕福な地域で有名らしく、マザーしか住んでいないというのがびっくりの大きな家でした。食事は、正直、手の込んだ手料理といえるものが出ることは少なかったですが、買ってきたものなのでおいしかったです。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇はありませんでした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

ショッピングと、レストランでおいしいものを食べることです。私が住んでいた Lake Oswego は、Tigard という地域にも Downtown Portland にも行きやすい場所だったので、よく週末にショッピングに行きました。レストランには、食べることが大好きな台湾人の友達と行って、満腹までおいしいものを食べました。アメリカのレストランの料理は大量なので、持って帰って次の日の昼食に持っていくのも楽しみの一つでした。あとは、日本でずっとやっていたお箏の演奏をすることです。現地で活動している演奏団体にコンタクトを取って、弾く機会をいただきました。最も思い出に残っていることは、ハウスメイトや台湾人の友達と旅行に行ったことです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

英語でのコミュニケーション、特に子供とのコミュニケーションです。私はサービslラニングをとっていたのですが、プレイスメントの一つが子供を相手にする場所で、あまり家庭での教育をうけてこなかった子供が主だったので、コントロールが大変でした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

私のハウスメイトは台湾人で、その子は私と同じ時期にアメリカに滞在する子でしたが、台湾人は日本人と相性がいいのかわかりませんが、私と性格も合い、問題なかったのですが、韓国人の友達のおおざっぱさには驚くことも多くあり、8 月に数週間だけハウスメイトになった韓国人の子は、私たち留学生 3 人が共有する洗面所に関する注意事項を守れなかったりと、少し相性が悪かったです。コミュニケーションに関しては、日本人がおとなしいのは想像できますが、韓国人の talkative さには驚きました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必ずあります。また、薬は日本のものが安心だとおもいます。私の家には洗濯ネットの予備がなかったので、自分で持って行って役にたちました。化粧水や生理用品も、慣れたものがないと思います。耳かき、爪切りも必要です。爪切りやシャンプーなどは、UWAJIMAYA というお店で買えます。ただ、日本より高いので、スーツケースの余裕を考えて決めるといいと思います。

② 語学の向上等、留学の成果、留学前と変わったこと

語学力は、留学前と後では TOEIC の点は上がりました。特に、リスニングは受験中に「なんか前より聞き取れる」と実感しました。留学中、特にサービ斯拉ーニングでは、だれも知り合いがいないなかでやっていかないといけない状況が多く、留学前と比べて、知り合いのいない環境に飛び込める耐性はついたかな、と思います

③ これから留学しようと思っている後輩へのアドバイス

留学中は、親に頼ることはできないし、自分がどうしたいかで結果が大きく違ってきます。特にセメスター語学留学の参加者は、英語に絶対の自信がある人はあまりいないと思います。でも、語学学校の先生はその道のプロで、生徒からの質問で、英語に関しても今まで気づかなかったことを気づけておもしろい、と言っていました。なので、疑問はなんでも先生に聞いて、助けてもらおうといいです。ホストファミリーもきっと力になってくれます。家族と話したくなったら LINE も Skype もあります。留学はお金もいるしなかなかできない体験なので、楽しんでください。

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来は、語学を使う公務員の職種のうちの一つを目指しています。英語の勉強もですが、公務員試験にむけて頑張ります。



学校の culture day という各国の文化紹介を目的とするプログラムの後、日本人生徒でスタバに打ち上げに行きました。帰国前ごろには、グランデサイズのフラペチーノが普通の感覚になってしまいました。



サービslラーニング後の帰国猶予期間にハウスメイト含む台湾人 2 人と一緒にロサンゼルスに旅行に行きました。この写真はサンタモニカの Venis ビーチでのもので、写真係になった友達に撮ってもらいました。

N. Y.（英語英文学科・2年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は1年生の時に、セメスター語学留学をしたくて、1年次の秋学期からの留学の試験を受けましたが、残念ながら、落ちてしまいました。もっと英語を話せるようになりたい、聞けるようになりたいということもありましたが、私には、将来の夢である、プロのジャズサックスプレイヤーになるために、アメリカにジャズを学びに留学をしたいという夢があったので、諦めずに、もう一度セメスター語学留学に応募しました。

② 留学決定から出発までの準備期間

語学勉強では、たくさん持っているディズニーや洋画のDVDを音声、字幕共に英語で見て、使えそうな単語やフレーズを見つけて、覚えていました。また、私は One Direction の大ファンで、持っているCDの曲を和訳したり、完璧に歌えるようにしていました。ビザの申請や、航空券の手配などは、時間がかかってしまうので、できるだけ早めにしておけばよかったな、と思っています。

③ 現地到着後

私は、伊丹空港から、成田空港に飛んで、成田空港からポートランド空港の飛行機に乗りました。私は、同じ大学からセメスター語学留学に受かった友達と一緒に成田空港から一緒に行ったので、一人で行くよりも安心でした。現地に着くと、PIAの校長先生とアシスタントの生徒さんが空港に迎えに来てくれていました。そこから、校長先生の運転で、ホームステイ先まで車で連れて行ってくれました。30分から40分で着きました。オリエンテーションでは、みんなでフルーツバスケットなどで遊んだりして交流を深め、プレイスメントテストを受けてクラスが決まり、授業登録や、在学の登録などをしました。

④ 語学研修期間

◆施設・環境・スタッフ

私が通っていたPIA、メリルハースト大学は、土地がとても広くて、緑が多い、きれいな学校でした。PIAのスタッフや先生もみんないい人で優しかったので、とてもよかったです。

◆授業内容、課題、試験

授業は、Grammar, Reading, Writing, Listening / Speaking の4教科でした。特に Reading は課題も小テストも多くて大変でした。先生によって授業や課題も変わると

と思いますが、私は、Reading 以外はちょうどいいレベルで、課題の量もちょうどよかったな、と思っています。試験は、これも、Reading が一番難しかったです。私は、Listening / Speaking の試験のプレゼンテーションは楽しんで出来たと思っています。

◆サービ斯拉ーニング

私はサマータームはサービ斯拉ーニングといって、学校外でボランティア活動をしていました。私は2つのプレイスメントでボランティアしていました。1つは、8歳から15歳の女の子だけが参加できる、Rock and Roll Camp for Girls という、ミュージックキャンプでバンドマネージャーを3週間していました。もう1つは、Ano's Art というアート教室で3週間ボランティアしていました。どちらも子どもたちばかりだったので、毎日楽しくボランティアさせてもらっていました。特に、ミュージックキャンプの方は、私のバンドメンバーたちが泣いて抱きついてきてくれるぐらい、信頼関係を気付けたので、とてもいい思い出です。学校で座って授業を受けているよりも、日本人が一人しかいない環境で、自分で行動し、英語で話さないといけなかったのも、とても充実していました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

私はクラブには所属していませんでしたが、私の Grammar の先生のお誘いで、先生が所属しているマーチングバンドで Pride Parade という、同性愛をテーマにした有名なパレードに出演させていただきました。放課後や、休みの日は、PIA のアクティビティや、Happy Hour という、無料の課外活動に頻繁に参加していました。みんなで遊びながら、英語で話せてとても楽しんで英語を話せました。私のホストマザーが小学校の音楽の先生なので、サクソを持って、1日ボランティアとして、お手伝いさせてもらいました。他の留学生にはできない、貴重な体験をさせてもらったので、とても感謝しています。

⑥ 現地での住まいについて

私は、ホームステイをしていました。家族構成は、ホストファザー、ホストマザー、ホストブラザー3人、ホストグランドマザーの6人家族でした。ブラザーは15歳、12歳そして、1歳の赤ちゃんでした。家がとても大きくて、どこの部屋も広かったです。ご飯は、料理が得意なファザーが作ってくれていました。どの料理もおいしくて、食べ物には困ったことはありませんでした。PIA から歩いて15分程と、とても近い家だったので、歩いて行くときもありましたが、シャトルバスがあったので、それもよく使っていました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

サービslラーニングが終わってから、帰国まで約 2 週間あったので、ホストマザーとカヤックに行ったり、友達とバブルランにも参加しました。また、ホストファミリーとビーチに 2 泊 3 日の旅行にも連れて行ってもらいました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

毎日の家での生活がとても楽しかったです。家族 1 人ひとりがとても優しい人たちで、毎日私のことを色々考えてくれて、思いやりのあるホストファミリーには感謝してもしきれないです。赤ちゃんと毎日遊んだり、ホストファザーのおいしいご飯を家族みんな一緒に食べたり、ホストマザーと一緒にスイーツを作ったり、ブラザーとゲームで遊んだり毎日当たり前だった幸せな生活が私にとってとても楽しかったです。ティーンエイジャーのホストブラザーたちは、私になかなか心を開いてくれなかったのですが、初めて私にハグをしてくれた時は、家族の一員に認められた気がして、とても感動したのが、最も思い出に残っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

伝えたい事をすぐに伝えられなかったり、伝わらなかったりしたのが、よくあったので、それが一番つらかったです。やはり、言語の壁は厚いなと感じることが多かったです。諦めずに自分が伝えたいことを伝えようとするのが大事だなと思いました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

子育てを家族以外に、ベビーシッターに任せたり、親戚の人や、ご近所さんにも任せたりすることが普通でした。時々、学校から家に帰ると、知らない人がいたりしたことがあったので、驚きました。また、日本のように、嫁・姑問題がないなど、アメリカでは、人間関係がとてもいいのだなあということに一番驚きました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

洗濯用ネットは、特に役に立ちました。私は、自分の洗濯物は自分で洗濯機と、乾燥機に入れて回していました。アメリカの洗濯機は、衣類が縮みやすく、傷みやすいので、ほとんどの洗濯物はネットに入れて洗濯していました。パソコンも持っていきましたが、私のパソコンはタブレット型で、USB がさせないタイプのものでした。パソコンを持っていくなら、USB をさせるものの方がいいと思います。

② 語学の向上等、留学の成果、留学前と変わったこと

ネイティブスピーカーと話すことが苦でなくなりました。留学前までは、話し出すまでに時間がかかったり、考えながら話していたので、間があいたり、話すスピードが遅くなっていたが、少しは改善されたと思う。リスニング力が、自分の中で一番上がったと思っています。TOEIC のリスニングテストや、リスニングの授業で、成果を実感しています。

③ これから留学しようと思っている後輩へのアドバイス

英語を少しでも話せるようになりたい、聞けるようになりたいなどと思っていれば、絶対に参加するべきです。私はこのプログラムに参加して、本当に良かったと思っています。日本では絶対にできない、英語学習の充実さはや、人間関係、経験はきっと一生の宝になると思います。少しでも迷っているなら、絶対に参加してみるべきだと思います。実際に、留学に行くと、個人の努力と経験の差で英語力の差が出てしまいますが、自分を試すつもりで参加してもいいと思います。一歩前に踏み出してみてください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

前にも記した通り、私の夢はプロのジャズサックスプレイヤーになることです。卒業後はジャズを学びに、アメリカに留学したいと考えています。そのために、私は英語も、音楽もこれからも頑張っていきます。



帰国前に空港で撮った写真。ホストマザーと赤ちゃん。私と私の家族あてにカードを書いてくれました。



サービslラーニングでボランティア活動していた Rock and Roll Camp for Girls 最終日に撮った写真。バンドメンバーたちもいい子たちばかりで、すぐにいい曲が出来上がりました。このバンドメンバーたち、バンドコーチにたくさん助けてもらいました。